

2025 年 6 月 19 日

バス事業者として国内初の本格導入！！ 脱炭素社会実現を推進！ 軽油使用時における CO2 排出を実質ゼロとする 『出光カーボンオフセット fuel -ICOF-』を導入いたします！

東武バス株式会社
東武バスセントラル株式会社

東武バスグループの東武バスセントラル株式会社（本社：東京都足立区、社長：岩田敏之）では、路線バス等の燃料として使用する軽油について、出光興産株式会社（本社：東京都千代田区、社長：酒井則明）が発売し、東武商事株式会社（本社：東京都墨田区、社長：宮崎裕）が供給する『出光カーボンオフセット fuel -ICOF-』を国内のバス事業者として初めて本格的に導入し、西柏営業事務所にて利用開始いたします。

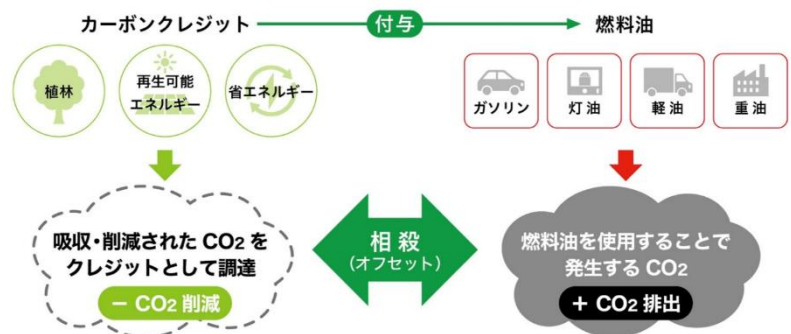
『出光カーボンオフセット fuel -ICOF-』は、軽油使用時において発生する CO2 排出量相当のカーボンクレジットを付与することで、排出量を実質ゼロとするもので、西柏営業事務所における使用量の一部を「100%オフセット」された軽油に置き換え、年間約 1,500 トンの CO2 削減を実現します。

東武グループの連携により環境負荷の低減に寄与するとともに、脱炭素社会実現へむけた取り組みを推進してまいります。概要については、次のとおりです。

- (1) 利用開始 2025 年 6 月供給分から
- (2) 利用事業所 東武バスセントラル株式会社 西柏営業事務所（千葉県柏市）
- (3) 燃料油種 出光興産株式会社『出光カーボンオフセット fuel 100（軽油）』
※使用分の CO2 排出量を 100%オフセット
- (4) 供給事業者 東武商事株式会社
- (5) CO2 削減量 年間約 1,500 トン



BESIDE YOU
東武バスグループ



CO2 オフセット（イメージ）

【このリリースに関するお問合せ先】

東武バス株式会社 経営企画部（総務担当）森田・金子 ☎03-3621-0102

【参考】東武バスグループにおける環境負荷低減の取り組み

＜ゼロエミッション車両の導入＞

東武バスグループ各社では、EV バスや燃料電池バスなど、走行時に CO2 を排出しない先進車両を導入し、環境負荷低減に寄与するとともに、低騒音により都市環境の改善にも貢献しております。

【導入事例】

- ・国内初の BEV フルフラット路線バス「いすゞ エルガ EV」を導入。
- ・水素を燃料として走行する燃料電池バス「トヨタ SORA」を導入。
- ・新座市コミュニティバス「にいいバス」にて小型 EV バスを運行。
- ・日光西町エリア等を周遊する日光グリーンスローモビリティにて電気自動車「eCOM-10」を運行。
- ・日光国立公園内のマイカー規制エリアにおいて、奥日光低公害バスとして EV バスを運行。



東武バスグループにて運行するゼロエミッション車両

＜太陽光パネルの設置＞

東武商事株式会社が提供するオンサイト PPA モデルを活用し、足立営業事務所の屋根上に太陽光パネルを設置し、電力使用における CO2 排出量の低減を図っております。

発電した電力は、電灯や空調のほか、EV バスの充電等にも活用しています。



足立営業事務所 太陽光パネル

＜バイオ燃料による地産地消型エネルギーサイクルの構築＞

環境省の脱炭素先行地域に選定された奥日光エリアにおいて、廃食油由来のバイオ燃料を使用したバスの実証運行を実施しました。

この結果をふまえ、栃木県内の東武グループ各施設で生じる廃食油を用いてバイオ燃料を精製し、路線バス等に使用することで、地産地消型のエネルギーサイクル構築を目指し、「国際エコリゾート日光」の価値向上や、地域の持続的発展に貢献してまいります。



実証運行車両

＜日光エリアにおける地域や企業間と連携した取り組み＞

沿線地域との連携による公共交通機関を活用した脱炭素の取り組みとして、「日光市地域循環によるゼロカーボンシティ実現条例」に賛同し、東武日光駅～中禅寺温泉間にて、急行バスを運行しております。

この取り組みにより、自家用車から公共交通機関への転換を促進し、CO2 排出量削減に寄与いたします。（※4 月 1 日～11 月 30 日まで運行）

また、ヤマト運輸株式会社と連携し、同社の配送経路と重複する日光駅～中禅寺温泉間にて「客貨混載」を通年で実施し、集配車両の走行距離削減により、エリア内の脱炭素推進に貢献しております。



バスのトランクを活用し「客貨混載」を実施